カヒミカリイ

ラジオのように。

写真／かくたみほ　文／大野智己

エコジン・インタビュー
[ecojin_interview]

実験的な音作りや、その囁くような魅惑的な歌声で多くのファンを持つ、
ミュージシャンのカヒミカリィさん。
幼い頃から、動物や植物への関心が深かったというカヒミさんは、
エコロジーに関する知識はもちろん、自然の音や色彩を、
まるでラジオのように敏感にキャッチし、自らの音作りに反映させています。

エコジン vol.9
2008年11月号

デザイン
Tattaka、泉沢儒花（Bit Rabbit）

Cover撮影
トビタテルミ
京都のブランド、モリカゲシャツでは、着古した洋服を藍染めで染めかえるプロジェクトを行っている。左2点が染めかえ後のシャツ。右は、「染め変え券」付きのシャツ。

エコジン

11 月 号
［エコジン］
Vol.9 Nov. 2008

CONTENTS

03 エコジン・インタビュー
カヒミカリィ「ラジオのように。」
06 特集
ずっと、使いつづける。
16 海外エコ事情
18 特集2
低炭素社会へシフトするために
22 エコ・ジャーナル
24 エコ百科　［石綿健康被害救済法改正］
26 エコジン・レポート　［続く、つながる、教育の環］
32 エコジン・アイ
33 エコ生活のもと
34 エッセイ 大江戸エコロ帖 第九回
「土に還る（4）藁で生きる」　文／石川英輔
35 エコモノ

エコジンとは、“エコロジー+人”、“エコロジー+マガジン”のこと。環境のことを考える人が一人でも多くなることを目指す、環境省発信のエコ・マガジンです。
※本誌の掲載文のうち、執筆者の意見にあたる部分については、環境省の見解と異なることがあります。

不思議なことも、ちゃんと知れば、少しも不思議じゃない。

カヒミカリィ
ミュージシャン。'91年デビュー以降、国内外で数々の作品を発表。NHK FMのパーソナリティー、連載コラムや映画コメント執筆、字幕監修なども手掛ける。最新CD『NUNKI』とDVD『KOCHAB』（ともに'06）が話題に。近年は、全国各所でのフェスやイベントに出演。10月4日には、鎌倉妙本寺にてライブ、末にはコンピレーションCDを発売予定。現在、来春発売のアルバムを制作中。
http://www.kahimi-karie.com

「今日は、影響を受けた本を家から持ってきたんですよ。そうしたらなんだかたくさんになってしまって」

照れ笑いして、バッグから次々とエコロジーに関する本を取り出すカヒミさん。『レモンジュースの雨――地球環境と日本の役割』『ベジタリアン・クッキング』『いのちを守るドングリの森』……。愛読書だという約10冊の本はどれもタイトルが魅力的。思わずページを繰ってみたくなる。

「普段、こうして本から刺激を得ることが多いんです。もともとエコロジーに関心を持つようになったのも、本がきっかけ。思春期の頃、興味のあった菜食について本で調べてみたんです。そうしたらとっても面白くて。やがてマクロビオティックス（自然食を中心とした食事療法）などの食や暮らしなど、各方面にも興味が広がっていきました」

読書以外に、自然環境をテーマにしたドキュメンタリーを見たり、講演会などにも足を運ぶ。自然環境に想いを馳せることで知識をどん欲に得、それを日常生活の中で実践する――知への好奇心が、カヒミさんの最高の「ガイド」だ。

「環境問題って、遠くの出来事が自分の暮らしとどう結びつくのか、想像してみることが必要ですよね。そのためにもまずは知ることが大事。知らないと想像もできませんから。それに知れば知るほど、不思議だったことが解消され楽しくなる。自分の中で楽しさを感じ続けていることが、結果的に生活を変えている気がしますね」

大事なのは知ることと、楽しむこと。カヒミさんはそう語る。その上で洗剤を使わずにどれだけ洗濯ができるか工夫したり、強い薬を飲まず自然治癒力を高めてみたり。興味を持っていろいろなことを行っていく。

「生活の中で出来ることは、何でもやってみたくなるんですよ。でも順番は間違えちゃいけないと心がけています。例えば菜食に極端なほどこだわっていた時期があったんですが、砂漠のような食べるもの自体がほとんどない場所へ旅をする時などに、一体、何の為に菜食をするのか考えてしまって。今はあまりストイックになりすぎず、もっと大らかに暮らしと向きあうようになりましたね」

その一方、長い時間をかけ、自然環境や暮らしを見つめ直していくうち、カヒミさん自身の音楽表現にも変化が生まれてきたという。

「ある時期までは、『音楽』を意識していたんですが『音そのもの』を大事にするようになりました。とりわけ自然の音には敏感になりましたね。水の音、風の音……。それらと楽器の音との区別がなくなり、文字通り音を楽しめるようになりました」

カヒミさんの近作『NUNKI』は自然の音、楽器による音、電子音などが、囁くような歌声と共に鮮やかに混ざり合う作品だ。繊細な音色が穏やかなリズムの中、幾層にも重なる様子は花びらを思わせる。

「このアルバムも実は植物がアイデアの源なんです。あるテレビ番組で花が咲く瞬間の音を聴き、小さい音にもかかわらず、鮮やかな音色に驚いてしまって。そんな風に小さな音も工夫すれば新しい音楽になるんじゃないかと思ったんですよ」

『音』を通じて、自然の面白さを発見するカヒミさん。自然には私たちが知らない秘密がまだまだたくさんある。日々の意識を変えることで新たな発見が、私たちの暮らしの上にもきっとあるはず。カヒミさんの音楽は、そんな声にならない、自然の声をさりげなく伝えてくれている。